

令和元年11月10日  
今週のベストショット



青松園A 三苫ホーネッツ 対 奈多クラブ

二打席連続HRで全勝優勝を引き寄せる、三苫ホーネッツ一番塚 恭祐選手。

写真：雁の巣ライナーズ 宇野 元康

奈多グラウンド 単打7本で7得点、見事な勝利！！

奈多サンデーズ (9勝3敗) 2020120 7 古賀○ー野々下

新町ウインズ (6勝4敗2分) 1001000 2 藤田●ー吉浦

HR：泉(太)、吉浦(新町ウ) 2BH：佐護(奈多サ) 今林(新町ウ)

盗塁：古賀、川原(奈多サ) 安藤(一)(新町ウ)

両チームとも試合開始ギリギリまで入念にアップを行って始まった試合は、初回から試合が動く。一回表、奈多サンデーズの攻撃は、二番近藤(優)選手がデッドボール、三番八島選手の内野安打でチャンスを作ると、四番野々下選手のタイムリーと五番宮口選手の犠飛でいきなり2点を先制。その裏、新町ウインズ先頭の泉(太)選手がライトへの先頭打者HRで1点を返すと、続く安藤(一)選手がフォアボールで出塁し、すかさず盗塁を決める。ここで追付きたかったが、走塁ミスでダブルプレーになるなど結局ホームランの1点で攻撃が終わってしまう。三回表、奈多サンデーズは先頭川原選手が四球で出塁し、一死から送りバントで得点圏にランナーを進めると、奈多グラウンド特有、早朝の太陽光線などで、ウインズがまさかの三連続エラーで追加点を献上してしまう。1点でも返したいウインズ打線だったが古賀投手の前に二回、三回は三者凡退。しかし四回表、藤田投手が三者凡退に抑えると、二死から女房役の吉浦選手のソロHRで1点を返すと、さらに今林選手がセンターオー

バーの二塁打を打ちエンジンがかかってきたかに見えた。が、古賀投手が後続を打ち取り1点止まり。その後サンデーズは五回表に八島選手の犠飛、六回表に八番佐護選手、一番古賀選手のタイムリーで追加点を挙げ、終わってみれば7-2でサンデーズの勝利。秋の奈多グラウンド・・・サード、ショート、レフトはサングラスが必要ですね！！（記事・写真：奈多フェニックス 能丸 英和）



今季最終戦へ向けた両監督の固い握手。



新町ウインズ先発の藤田投手。



今季一の投球、奈多サンデーズ先発の古賀投手。



一回表、先制タイムリーを放つサンデーズ野々下選手。



一回裏、豪快なHRを放ったウインズ泉 太一選手。



素晴らしい送りバントでチャンスメイクする近藤 優太選手。

## 青松園A 三苦ホーネッツ、全勝で優勝に花を添える！

三苦ホーネッツ（12勝）105311 11 川原○、矢野（義）－広木

奈多クラブ（6勝6敗）000100 1 吉田●、大石－安河内

HR：堺（恭）2、今田（三苦ホ）2BH：井手（三苦ホ）

今期これまで11戦負けなしの三苦ホーネッツ。すでに優勝を決めてはいるが、全勝をかけて試合に臨んだ。三回表、1点リードで迎えたホーネッツは一死から一番堺（恭）選手があわや柵越えかと思わせる左翼への特大HRでチームに勢いを与えると、ホーネッツ自慢の打線が火を吹き、この回だけで一挙5点を挙げる。続く四回表にもまたもや堺（恭）選手の二打席連続HRなどで3点を追加し、奈多クラブを大きく突き放す。このままでは終われない奈多クラブではあったが、ホーネッツ先発の川原投手の前に四回裏に七番今林（俊）選手の二塁ゴロの間に1点を返すのが精一杯であった。五回表には今田選手のソロHR、六回表にも1点を加え、このままリードを守ったホーネッツが試合を制し、今期全勝を果たした。ホーネッツは投打に高い水準でバランスが取れており、全勝優勝も頷ける強いチームだと改めて感じる試合であった。来期は我がチームも含め、この強いホーネッツを脅かすチームが現れて欲しいものだ。（記事：雁の巣ライナース 明瀬 旭、写真：宇野 元康）



奈多クラブ先発の吉田投手。



三苦ホーネッツ先発の川原投手。



三回裏、チーム初ヒット奈多クラブ一番今林（賢）選手。



力強いボールを投げ込む奈多クラブ二番手大石投手。



四回表、2本目の本塁打を放った一番塚 恭祐選手。



四回裏、見事な中前打を放つ奈多クラブ六番大石選手。



五回表、右翼へHRを放ったホーネッツ七番今田選手。



六回裏、最後を締めたホーネッツ二番手矢野（義）投手。



2001年奈多サンデーズ以来の全勝優勝を記念して中村監督を胴上げするホーネッツナイン。